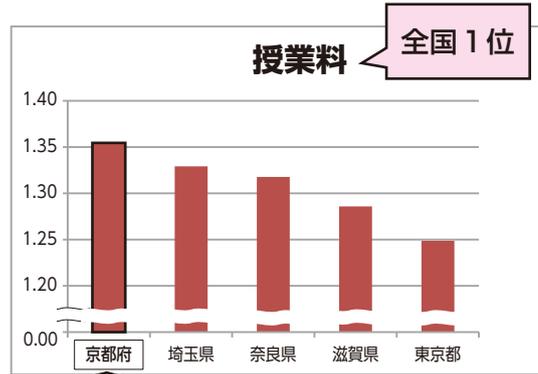


● 「教育」 について

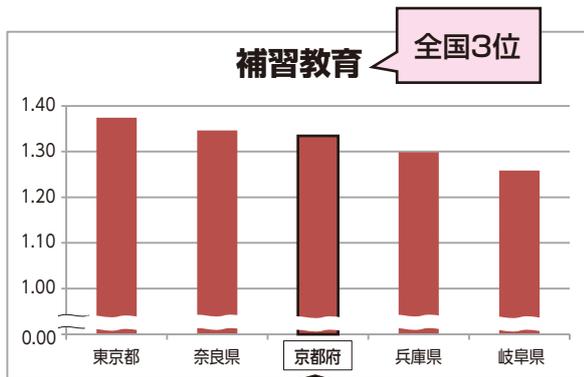
「教育」は全国1位となっています。中でも「授業料」全国1位、「補習教育」全国3位と非常に教育への関心が高いことがわかります。

京都府には大学がたくさんあるので、子どもにしっかり勉強をさせて、府内の大学へ進学させたい、と考える保護者が多いのではないのでしょうか。

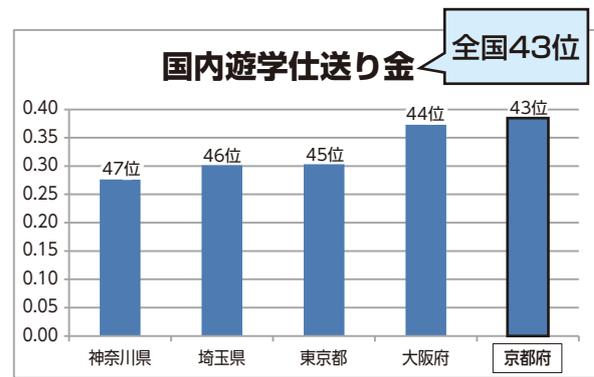
「国内遊学仕送り金」への支出が低いのは、その影響とも考えられます。



(「私立大学(授業料)」全国4位)



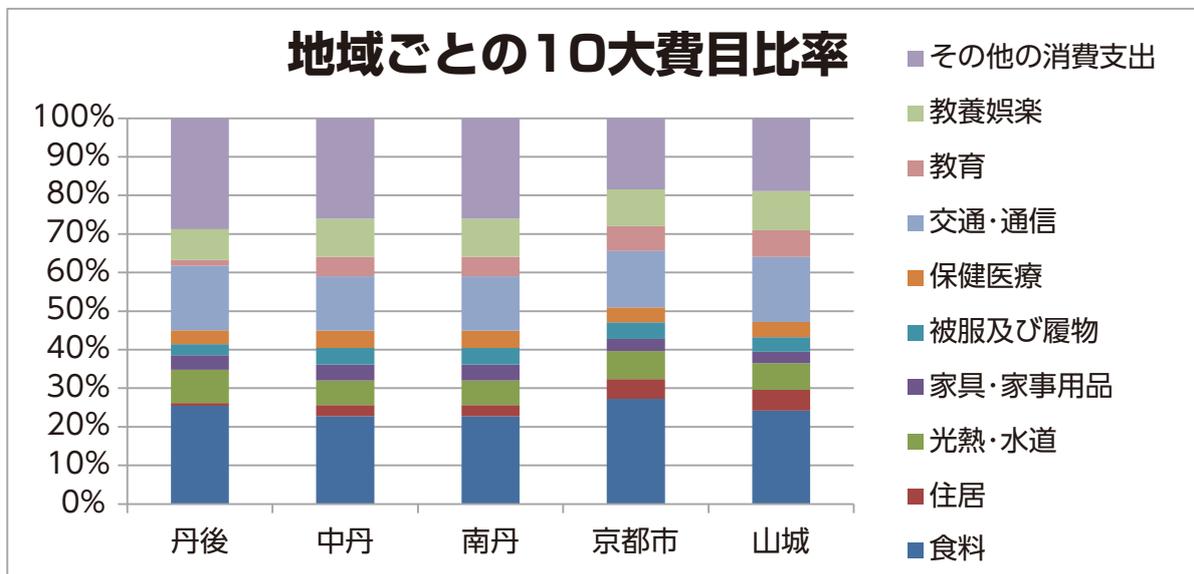
(「高校補習教育・予備校」全国2位
「中学校補習教育」全国3位)



ここまでは全国と京都府の比較を行ってきましたが、京都府内の5つの地域ごとに比較することもできます。下のグラフは、府内の各地域の10大費目への支出割合を比較したものです。

全体を比較したときに、丹後・中丹・南丹地域では「その他の消費支出（仕送り金、交際費等を含む）」が高く、京都市・山城地域では低くなっています。また、「住居」で見ると逆の結果になります。エンゲル係数（下グラフの「食料」の割合）を見ると最も高いのは京都市で、最も低いのは南丹地域です。

このように、同じ京都府内でも消費の仕方は地域ごとにも大きく変わってきます。皆さんもご自身の家計の分析をしてみたいはいかがでしょうか。



出典：平成26年全国消費実態調査（総務省）